



はじめに

HZ研究会は抗ヘルペスウイルス薬の適正使用の推進とより効果的な使用法の探求を目的として設立されました。得られた結果は皮膚科医を中心に、帯状疱疹治療に携わることができるだけ多くの医師にフィードバックすることが使命であると考えています。

2009年の第1回研究会では「腎機能低下患者における抗ヘルペスウイルス療法の課題と対策」、2010年の第2回研究会では「頭頸部の帯状疱疹に伴う合併症の早期診断と治療」について討論しました。第3回目にあたる今回は帯状疱疹治療の最も大きな命題である疼痛治療、すなわち「帯状疱疹関連疼痛 (ZAP) のマネジメント」について討論しました。

第一人者の先生方にお集まりいただき、最初は疼痛メカニズムの最新の知見について、その後は急性期から亜急性期、そして慢性期までの疼痛マネジメントについてご講演およびご討論いただきました。

本日の結果が我々にとって、また多くの皮膚科医にとって有意義なものとなりますことを願っております。

安元 慎一郎